

令和7年度  
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業  
実施計画書（継続団体用）

活動団体の本事業での活動テーマ

『生産者と消費者が互いに支え合える風土づくり』

活動団体の活動地域：徳島県

活動団体名：一般社団法人とくしまCSA風土

中間支援主体名：認定NPO法人とくしまコウノトリ基金

# 参加団体の基本情報

## (1) 活動団体の基本情報

団体名	一般社団法人とくしまCSA風土
活動地域	徳島県
専門性・強み	
#CSA #農業 #食育 #消費者教育 #行動変容 #健康 #食料システム #徳島県農林水産審議会委員	

団体概要
<ul style="list-style-type: none"><li>・ ミッション：環境と調和の取れた食糧システムの確立と、人々の健康、豊かな食文化を未来に繋げるため、生産者と消費者をつなぐCSA（Community Supported Agriculture）を主として徳島県内全域に広げ、全国さらには世界にネットワークを広げる。</li><li>・ 取組内容：勉強会の開催、マルシェの開催、農業体験、CSA立ち上げの支援、地産地消の促進、交流会の開催、小学校への出前授業や企業等での講演</li></ul>

## (2) 中間支援主体の基本情報

団体名	認定NPO法人とくしまコウノトリ基金
活動地域	徳島県
専門性・強み	
#コウノトリ #ビオトープ #環境保全型農業	

団体概要
<ul style="list-style-type: none"><li>・ ミッション：コウノトリをはじめとする希少鳥類の定着と繁殖を目指す活動及びその他野生生物の保護活動を実施・支援することを通じて、豊かな自然を活かした地域農業や地域経済の活性化に寄与する。</li><li>・ 取組内容：コウノトリ野生復帰の実現に向けた環境整備、農業や経済活動の活性化、環境教育・啓発、環境・産業・文化の情報発信、活動資金の確保</li></ul>

# 活動団体と地域の紹介

生産者と消費者を直接つなげる

※CSAを普及させるのではなくCSA風土を広げていくのがゴール



# 活動団体の目指す地域の姿

## ■ 地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

- ・人の交流が生まれ、持続可能な地域経済が回りだしている。
- ・環境保全され生物多様性が守られる農業や農作物に対する人々の理解が深まっている。
- ・生産者と消費者双方の顔が見える関係となり、作る側と食べる側が互いに励まし支え合う元気な地域になっている。

## ■ 地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

環境にやさしい農業や農業体験の受け入れができる農家、消費者に対する食農教育実施者、地産地消や社員への福利厚生等に関心のある企業、農業や食育に関する行政といった、地域の農家とそれを支える行政、消費者をつなぐ団体でPFを構築し、現在の課題の整理と、農家と消費者をつなぐシステムづくりを検討しながら、実現に向けてチャレンジする。

## ■ ローカルSDGs事業として取り組む内容

- ①食と農に関する社会課題解決のためのコミュニティ形成
- ②CSA文化の浸透と環境にやさしい農業の普及
- ③つながりをベースにした地域経済の循環事業

## ■ 地域の現状と課題

徳島県の食料自給率はカロリーベースで40%、生産額ベースで110%だが、その多くは近畿・関東圏に供給しており、地産地消率は比較的低く、手に入れにくい。鳴門市にはれんこん、鳴門金時、なし、らっきよの徳島を代表するブランドの農産物があるが、大規模産地（他地域や海外）の低価格のモノに負けてしまい、生産者の意欲も下がっている。生産者の高齢化と担い手不足の課題が深刻である。消費者が生産者の現状を知らない。環境にやさしい農業の支援体制が乏しい。

# 現時点のマングラ

## とくしまCSA風土地域マングラVer.3

### 経済

#### 地産地消の促進

地元企業・H加工会社

#### AWAランチ

Kさん

農家の売上げが減っている 食品ロスがある

環境にやさしい農業に取り組む生産者 加工業者

流通業者 企業団体 CSR、CSVに取り組む企業

小売業者 地産地消コーディネーター 社員食堂

料理人 規格外品 食育活動をする人たち

学校給食 飲食店

#### オーガニックマルシェ

地元ホテルA

食品ロスがある

農作物の価格の課題

農家の売上げが減っている

生産者と消費者のつながりが弱い

有機に取り組む生産者団体

環境にやさしい農業に取り組む生産者

CSR、CSVに取り組む企業

#### 農業体験・畑ツアー

Mファーム・S農園・K農園

工業的な農業が環境を破壊している

農作物の価格の課題

観光業者

環境にやさしい農業に取り組む生産者

### 社会

#### 地域の課題解決のワークショップ

Mさん

課題全般 生産者と消費者のつながりが弱い

食育活動をする人たち NPO（社会） 学生 CSAに興味のある県内外の人

ファシリテーター 栄養士会 研究機関 社会起業家 行政

#### 食と地球の未来を考える会（勉強会）

とくしまCSA風土

環境にやさしい農業に取り組む生産者

#### 交流会

オーガニックマルシェ

地元ホテルA

#### 小学校での農業体験と調理実習

地元小学校・コウトリ基金

#### 食育推進全国大会のミニイベント

徳島県

健康、食、農に対する意識、知識が不足している

地域の小学校 学校給食

県内大学 行政

食育活動をする人たち

栄養士会

環境にやさしい農業に取り組む生産者

### 環境

#### 農家座談会

後継者不足 資材の高騰

農家が高齢化している

耕作放棄地の増加

気候変動による不作

#### CSAの試験的運用

S農園

生産者と消費者のつながりが弱い

環境にやさしい農業に取り組む生産者 藍 米

柑橘類 野菜 阿波晩茶 なんと金時

野草・ハーブ 温暖な気候と肥沃な土地

有機に取り組む生産者団体

CSAに興味のある県内外の人

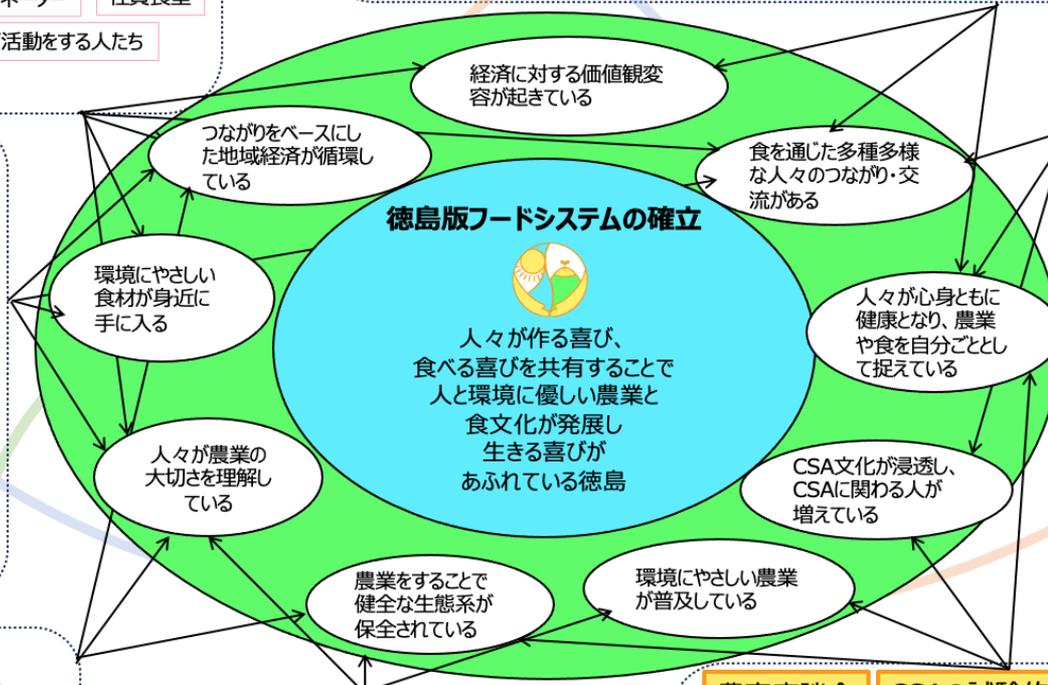
#### CSA・自然栽培講座

K農園・A農園

### 徳島版フードシステムの確立



人々が作る喜び、食べる喜びを共有することで人と環境に優しい農業と食文化が発展し生きる喜びがあふれている徳島



ありたい未来

成果

事業

課題

リソース

# “地域プラットフォーム”のイメージ

## 現時点での体制

移住-就農  
希望者

実践：現在活動中

○：個人

点線：これから巻き込みたい

□：団体、法人等

とくしまフード  
システム (CSA)

関心を持って  
くれる人

フィールドワーク  
(農業体験)  
マルシェ

生産者部会  
(県内外ネット  
ワーク)

飲食・食品  
加工部会

流通小売  
部会

自然農法  
M

大学教授

飲食・食品  
加工業者

各地域  
行政連携  
働きかけ

流通小売  
業者

アドバイザー

行政  
OB

食と農に関する  
企業案件

ホテルA、製薬会社○  
スポーツジム○

とくしま  
CSA風土

とくしま  
コウノトリ  
基金

農水、小学校(県  
内学校)、S大学、  
徳島栄養士会

食育授業  
食育全国大会

ワークショップ  
(勉強会)

企画部会

異業種交流会S

Yさん

Mさん

中間支援

イベント  
(地域色)

足りない資源 (ヒト：各分野で主体動いてくれる人たち) (資金：人件費の確保)  
(情報：これから巻き込みたい団体、法人等、資金を確保できる補助金や助成金等)

# ローカルSDGs 事業の詳細

## ●事業名称1：食と農に関する社会課題解決のためのコミュニティ形成事業

あらすじ

食と農を通じて人々のつながりをつくり、主体的に動いてくれる人たちを増やし、地域の食と農に関する社会課題を解決していく。

ストーリー

生産者と消費者のつながりが弱く、「農家が減っている。有機農業が拡大していない。」などの生産現場の課題が消費者に浸透していない。このままでは消費者は豊かな食を失い、健康を保つことができない。より多くの人たちと課題を共有し、生産者と消費者の接点を作り、消費者が生産者を支え、生産者を支援する仕組みをつくっていく必要がある。よって一般社団法人とくしまCSA風土は、環境にやさしい農業に取り組む生産者、それに理解のある消費者、地域の生産者団体、行政（徳島県農林水産部みどり戦略課）、地域の教育機関と連携し、食育活動をする人たち、社会起業家などと共に学び、行動できる仕組みをつくる。オーガニックマルシェ、食と地球の未来を考える会、地域の課題解決ワークショップ、小学校での農業体験と調理実習、食育推進全国大会でのミニイベント等を実施することで、食を通じた多種多様な人々のつながりができ、経済に対する価値観の変容や、人々の心身の健康と農業や食を自分ごととして捉えるようになる。生産者と消費者の相互理解が進み、信頼関係ができ、持続可能な助け合いの形成につながると考える。

## ●事業名称2：CSA文化の浸透と環境にやさしい農業の普及事業

あらすじ

人々の農業への参画が盛んになり、農地や農業の意義を広げて新しい価値観を見出す。後継者不足や耕作放棄地の増加、資材の高騰、気候変動による不作など農業が抱える問題への新たな突破口を築き環境保全と安定した食糧生産を目指す。

ストーリー

後継者不足や耕作放棄地の増加、資材の高騰、気候変動による不作など農業抱える課題は山積みである。国はみどりの食料システム戦略を掲げ、環境にやさしい農業を進めたいと方針を立てているが、なかなか拡大していない。地域で環境にやさしい農業を普及させるために、一般社団法人とくしまCSA風土は環境にやさしい農業に取り組む生産者と農家座談会や、CSAの試験的運用、自然栽培講座、農業体験、畑ツアー、食を切り口とした環境学習などに取り組む。農業体験、畑ツアーなどで消費者が農地を運ぶ機会をつくることで、人々が農業の大切さを理解するきっかけをつくる。食を切り口とした環境学習を行うことで、農業をすることで健全な生態系が保全されていることを知ることができる。農家座談会やCSAの試験的運用、CSA・自然栽培講座などを生産者たちと協力して行うことで、CSA文化がより浸透し、人々の農業への参画が盛んになる。これらの取り組みを盛んにしていくことで、環境にやさしい農業の普及を支える徳島版フードシステムを確立していく。

## ●事業名称3：つながりをベースにした地域経済の循環事業

あらすじ

食や農に関する課題について、地域におけるさまざまな団体を支援することで、課題を解決するとともに地域経済を回している。

ストーリー

食品ロスや農作物の適正価格に対する消費者の理解度が醸成されていない、農業は価値ある産業であるのに労力の割に売り上げにつながっていない、生産者と消費者のつながりが弱いという課題がある。地域の人や事業者がつながり、食や農に対する課題を明確にし対価を得てそれぞれ自立していく。とくしまCSA風土は、地元ホテルA、地元企業O、加工業者H、食育活動をする人たちと連携しながら、食や農に関連した事業を自ら行う、あるいは連携した人たちの事業を支援する。これらの事業を行うことで、食品ロスの課題が解決し、地産地消率も上がっていく。食を通じた多種多様なつながり・交流が生まれ、消費者は環境にやさしい作物が身近に手にはいる環境となり、つながりをベースにした地域経済の循環が起きている。

# 3 力年状態目標

## ■ 2026年度末の状態目標

訪問した企業の中で、食と農に関する企業案件の事業を3件実施している。  
マルシェを毎月開催し、農家とファンになった消費者で交流が盛んに行われている。  
農業体験を定期的に開催し、CSAに参画したいと思う消費者が多く現れている。  
勉強会を3ヶ月に1回開催し、とくしま版フードシステムについてブラッシュアップしている。  
生産者部会に加え、食品加工部会、流通小売部会を定期的に開催している。  
他地域のパートナー団体とCSA風土づくりについて互いの強みを活かし高め合う関係ができている。  
徳島県内の自治体の一つでCSA風土づくりが行なわれている。  
農業したいなら、自給自足したいなら徳島へという風土が広がっている。  
賛助会員が個人会員150人、企業会員10件

## ■ 2025年度末の状態目標

新たに5社の企業を訪問している。  
新たに20軒の農家を訪問している。  
マルシェを毎月開催し、農家とファンになった消費者で交流が行われている。  
食育推進全国大会でセミナー、展示ブースを出展し、全国に取り組みを知ってもらう。  
農業体験を企画し、定期的に開催している。  
CSAが5軒始動し、かつ2年目も継続している。  
勉強会を3ヶ月に1回開催し、とくしま版フードシステムについて議論できる体制を作っている。  
生産者部会を定期的に開催し、CSA等の議論を行っている。  
徳島県農林水産審議会に参加し活動の中で得られた知見を徳島県の農業政策に結びつけている。  
全国のCSA団体と繋がっている。  
賛助会員が個人会員100人、企業会員5件

## ■ 2024年度末の状態目標と振り返り

5社の企業を訪問している。→13社訪問した。  
20軒の農家を訪問している。→45軒訪問した。  
マルシェを毎月開催し、農家とファンになった消費者で交流がはじまっている。→マルシェを毎月開催(12回)し11月に交流会を開催した。  
一緒に取り組める仲間(食育関係者)が2人見つかった。→食育や環境問題、地域づくりに興味がある2人が見つかった。  
食育推進全国大会に向けて行政と連携している。→徳島県みどり戦略推進課より講演の依頼をいただいている。  
農業体験の企画を行い、プランが確立できている。→農業体験のプランが確立でき、農業体験(+畑ツアー)を計10回実施した。CSAを3軒の生産者が始動している。  
勉強会を2ヶ月に1回開催(組織として必要な方針が固まっている)→勉強会(+交流会)を計5回開催した。2025年は3ヶ月に1回の開催予定である。

# 中間支援主体のありたい姿

## ■ 中間支援主体としての獲得目標

これまで支援したり連携した団体は、すでに事業を展開し、ステークホルダーの広がりもある団体ばかりであったため、今回のようなスタートアップ段階の団体への支援ノウハウを身に着け、新たなプレーヤーの発掘や事業支援ができるようスキルアップをしていきたい。

## ■ 中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献

コウノトリのペアが年々増加し、全国でコウノトリが新たに定着した地域が増えている。また、コウノトリを呼びたいと、ビオトープの整備や環境保全型農業の普及に向けて取組を始める地域も出てきており、徳島県内でも取組を始めた地域がある。本事業で獲得した中間支援機能を活かして、新たに取組を始めようとしている団体へ仲間づくりや事業計画へのアドバイス等を行い、取組を開始し持続できるよう支援していきたい。それぞれの団体が安定して取組を持続できるようになれば、ネットワーク化することで、取組の相互参照や意見交換をする機会をつくり、ステップアップしていきたい。

# 中間支援主体の支援・取組計画

## ■ 中間支援主体の1年間の支援目標

昨年度見つかったコアメンバー候補2名が、徐々に取組の計画づくりやイベント運営に関わるようになっており、今後、活動団体の理事への就任等、パートナーシップをより強固にし、活動団体の代表がいない状態でも事業が継続できるよう体制強化を目指す。また、来年度以降、事業や会費による収入を増やし、自走できるように支援していきたい。

## ■ 支援計画

	活動団体の取組における現状と課題 (見立て)	課題を解決するために必要と考える手段 (打ち手)
①	活動団体の代表の取組になっていたが、コアメンバー候補2名が取組に積極的に関わり始めた。より取組に中心的に関わってもらえるようパートナーシップを構築し、体制強化が必要。	コアメンバー候補2名に、中間支援団体からもタイミングをみて、取組に対する想いや困っていること等を聞き、関係性構築に向けてフォローする。
②	事業のタネが動き始めているが、来年度以降自走するだけの事業収入は得られていない。	事業のタネを事業として育てていくために必要な、ステークホルダーとの連携や新たな関係者の発掘支援をしながら、取組が持続的なものとなるようアドバイスしていきたい。
③		

# 活動・支援スケジュール

## ■スケジュール



備考（補足説明など必要な場合は記載）